

日野川の砂礫河原再生を目指した 新たな試み

環境文化研究所 研究員 沖田 ちづる
代表 田中 保士

はじめに

福井県の日野川流域交流会は、住民主導組織として積極的な流域活動を展開しており、最近では、日野川の自然環境を見つめなおすための意見交換を図っている。日野川の現状として、土砂が堆積し、樹林化が進み、砂礫河原と連続した瀬や淵が減少したことや、河原の減少と樹林の繁茂により、水際に人が近づけない環境になってきたことから、砂礫河原と水際環境、および生物移動の連続性等の保全と再生に向けた取り組みが進められるようになってきた。

本報告は、2009年プロジェクトとして、日野川流域交流会が新たに立ち上げた「日野川に砂礫河原をとりもどす会」の活動を通して、日野川の砂礫河原再生における現況について、注目していくことにする。

日野川に砂礫河原をとりもどす会

地域・市民団体、専門家、そして行政および関連団体が連携・協働しながら取り組んでおり、日野川を愛する会、武生カヌークラブ、福井県日野川漁業協同組合、(財)日本野鳥の会会員、環境文化研究所、たかはし河川生物調査事務所、日野川用土地改良区、松ヶ鼻土地改良区、武生商工会議所建設業部会、武生観光協会、今庄観光協会、ふくい里地里山ネットワーク連絡会、南越前町建設整備課、越前市、福井県丹南土木事務所、福井県丹南農林総

合事務所農林整備部、福井県土木部河川課河川整備グループ、福井新聞みらいつなぐ・ふくいプロジェクトチーム、田倉川と暮らし



日野川砂礫河原の草取り

の会といった多くの団体関わっている。

主な活動としては、3月10日に万代橋～広野橋間で砂礫河原フィールド調査が行われた(第1回検討会)。4月には、下図に示す通り、万代橋～荒井橋間の植生が繁茂していた7箇所にて、砂礫河原再生実験や表層堆積土質の調査が実施され、24日に河原再生の現状報告と課題検討、モニタリング提案が進められた(第2回検討会)。5月10日は、日野川漁業協同組合前河原～万代橋上流河川緑地公園約1.7kmで、ボートによる川下り砂礫河原調査を試み、その視野から日野川の状況を詳細に捉えていくことに注目した(第3回検討会)。22日には、報告会が開かれ、これまで確認できなかった野鳥や魚などを見かけるようになり、日野川が徐々に健康的な川になってきたとの発表があった(第4回検討会)。



日野川砂礫河原再生箇所および市民の河原イベント会場

市民の河原イベント開催

日野川に砂礫河原をとりもどす会は、川や砂礫河原の生き物を観察し、川遊びを体験することで、流域住民に日野川の魅力を発見し、川への関心を高めてもらうために、市民イベントを企画し、7月26日、「そうだ！川に行こう！日野川自然博物館」が開催された。図に示すように、会場は日野川河川緑地公園と砂礫河原（万代橋上流）となっており、当会が現地視察を行った際に、利用度の高いこの区間を砂礫河原のモデル箇所にしたとの意見が多かった場所である。

日野川漁業協同組合の方々を中心として、アユの手づかみ漁体験区域の準備が進められ、網などを用いて周囲をせき止める作業や魚道での魚類調査を実施した。砂利上げや草取り、杭打ちをしながら、日野川砂礫河原周辺を整え、水際階段では、すべり防止を目的としたコケのぬめり取りなど、安全対策には十分配慮した。



アユの手づかみ漁体験区域の準備



アユの手づかみ漁体験

イベント会場である河川緑地公園と万代橋一帯には、シンボル旗が広がり、日野川河川敷には、「日野川の生き物学習テント・川活動PRテント」が設置され、当日採取した魚の水槽展示や魚道模型を通して、参加者が専門家と一緒に観察学習をした。さらに、日野川での釣り入門やカヤック活動の案内、PRパネルとして、希少種である上流のヤシャゲンゴロウの生息状況、川人（かわど）募集、日野川の砂礫河原再生における状況、魚道構造（現場見学）などが披露された。河原では、「アユの手づかみ漁体験」が行われ、参加者が一体となって約2,000匹のアユを放流し、漁師の指導のもと、約300人の親子たちがアユを手づかみして楽しんだ。参加者の中から、大物賞などを選んで表彰し、捕ったアユは、「アユの塩焼き体



魚道の見学コース



魚の水槽展示や魚道模型の観察



E ボート川下り

験」をしながら美味しく味わった。また、希望者を対象として、「親子で、川に遊ぶ・学ぶ体験」が実施され、10人乗りのボートに乗りチームワークで上流を目指しながら、河川環



川流れ体験

境を堪能した。また、川流れなども行い、川の危険を知り安全を学んだ。日野川流域交流会では、このような「子どもの水辺安全講座」を定期的に取り入れており、実際に川の中へ入って、川の流れや日野川周辺の自然を体感したり、学習会などを開いたりしている。

おわりに

日野川に砂礫河原をとりもどす会では、今後も砂礫河原再生（実験）の経過を継続観測しながら、日野川の現状を検討していくとともに、流域住民に砂礫河原への関心を高めてもらうための取り組みにも力を入れていく次第である。

今回のイベントを通して、参加者の中からは、生きた魚に触れ感動した、砂礫河原での川遊びは楽しい、来年も開催してほしい、親の立場からこのような子どもたちの遊び場を作ってほしい、自分たちはゴミ拾いくらいしかできないが川をきれいにしたいなど声が上がっており、流域住民に砂礫河原をアピールする良い機会を得ることができた。さらに、水辺で川の生き物に直接触れて観察するといった体験活動も含めた、総合的なイベントを展開していく予定である。

当会に関わるすべての団体と、流域住民の誰もが望む方向へ達成できるように、協働しながら、長期的に活動を進めていきたいと考えている。